福島県
教育新聞

発行人
発行所　福島県教職員組合
福島市上浜町10－38　電話024－522－6141
〔定価一部　20円〕
編集・責任者　瀬　戸　禎　子
e-mail : ftukyoso@poplar.ocn.ne.jp
http: //www.f-t-u.or.jp
（この購読料は組合費に含まれています。）

ろうきんのキャッシュカードなら
ATMお引き出し手数料が
実質０円
ご利用手数料はいったんご負担いただく場合がありますが、即時キャッシュバックいたします。
東北労働金庫

職場の声・専門部の声を届けました

12月25日（水）、県内各地から結集したみなさんにより、専門部交渉が行われました。

青　年　部

- 初任者研修（特にメンター研修）の改善や、勤務時間内に終えられる研修を要望。地区別研修等が学校行事と日程重複した現状も伝えた。
- 昨年に引き続き、「採用後20年以内の３管内３地区」など異動基準の見直しを要望。ライフプランにも影響が大きい現状を伝えた。また、養護教諭の異動についても改善を要望。
- 他管内（２校め）に異動後、システムの違いなど大きな負担感がある現状を伝えた。

女性部・養護教員部

- 出生サポート休暇（不妊治療休暇）について、治療内容によるものでなく10日へ日数拡大を要求。
- 介護などに伴う離職から復職しやすい制度の新設を要求。
- 養護教員の定年前再任用短時間勤務制の導入について、複数配置や初任者への支援で配置できないか要求。
- 人員不足の実態と代替・補充者の速やかな配置を要求。

栄養教職員部

- 栄養教諭の新卒採用を進めることを要望。

- 新任者指導に伴う業務が本来の業務を圧迫している。負担の軽減を要求。
- 受配校の多い給食センター・共同調理場へ栄養職員を加配することを要求。
- 老朽化した給食施設の更新とエアコン等による職場環境改善を要求。

事務職員部

- 公務貢献昇給期に関する年齢制限の撤廃を要求。
- 「学校事務の共同・連携実施」におけるグループ編成が困難、問題となっている現状から、今後の在り方について説明を求めた。
- 事務職員の全校配置、複数配置基準の弾力的な運用の要求。
- 働き方改革による事務職員の業務増加の現状を伝えた。
- 履歴書等の電算化や簡略化、辞令の表記見直しによる業務削減・効率化を要求。

障がい児教育部

- 特別支援学級の学級編成基準を５人に引き下げるよう要求。
- 支援学級担当者の休暇取得や研修への参加が促進されるとりくみを要求。特に、臨時採用者の研修機会確保を要求。
- 本人・保護者の希望に沿った通級指導教室の設置を要求。
- 高校入試における定数内不合格の現状改善を要求。

新春座談会

青年部部長・高校生平和大使・情宣部、青年部担当職員

右側から
八代耀佑（やしろようすけ）さん
（県教組青年部長）
長澤華咲（ながさわかのん）さん
（第27代高校生平和大使）
関口奈央（せきぐちなお）さん
（県教組情宣部・青年部担当職員）

2024年は、日本被団協がノーベル平和賞を受賞した記念すべき年となりました。そこで、2025年の新春号では「平和」をテーマに、青年、高校生、女性の立場からお話し頂きました。

2024年はみなさんにとってどんな年でしたか？

（八代）　家族が増え、今までの生活とは違ってきた。異動も重なり、初めて学年主任に。自分より若手と学年を組んだことで、ペースを考える気遣いも必要となった。県教組青年部長としての責任の重さも感じている。自分の発言や意見は、「福島県教組」としての組織の発言になる。

（関口）　育児休暇から復帰。独身の時と違って、家族が増えたことでいろいろ制約もある。学びたいタイミングで学べることはとても貴重なことだと感じている。

（長澤）　高校生平和大使になる前は、生徒会役員だけだった。高校生平和大使に選出されて、国の情勢や政治についてたくさん学んできた。自分の意思で考えを伝えていきたい。

それぞれの立場から「平和」について考えていることは？

（八代）　他県で青年部に関わっていたときに原水禁広島大会へ参加した。被爆者の話を聞き、毒ガス工場があった大久野島にいった。８月６日の平和記念式典にも参加。雰囲気の違うものものしさに戸惑いを感じた。

小学校教員となり、子どもたちから戦争について聞かれることがある。歴史の授業では学習しきれない「日本から見た戦争」と「世界から見た戦争」について、子どもたちには難しい。今は、学級＝小さな社会と考えると、子どもたちが安心・安全で生活できることが身近な「平和」であると考える。

（長澤）　担任の先生にペシャワールの会の中村哲さんの話を聞いた。中村さんは「三度の食事が得られること、自分のふるさとで家族仲良く暮らせること、この二つを叶えてやれば、戦はなくなると言います。私ではなくて、アフガニスタンの人々の言葉です。」と語っていたそうである。大切な人と顔を合わせる時間があれば戦争は起こらないのではないか。大切な人が笑っていられることが「平和」なのだと思う。

（関口）　長澤さんの話に共感する。家族で食卓を囲むという何気ないことが、未来まで続いてほしい。「今、平和なんだ」と気づかないと続かない。治安の面から見ても日本は治安が良い。オーストラリアにホームステイしていた時、夜間の外出は禁止、車の中に荷物を置いたままにできない、日本の当たり前は外国では違う。

（長澤）　イギリスでもスリに気をつけるよう言われた。日本の治安の良さに改めて気づかされた。

そもそも今の日本は「平和」な国だと言えるのでしょうか。

（関ロ）　日本が平和だと言えるのか疑問。そもそも日本は戦争ができない国のはずなのに、戦争できる方向に行っているのではないか。知人が自衛隊にいるが、自分が戦争に関わるかもしれないという危機感はあるのかなと思うし、心配にも思う。

（八代）　日本はかつて実際に戦争をしていた。96歳で亡くなった祖母から戦争体験を聞いたことがある。祖父は出征していて、空襲も経験した。満州でも生活していたらしい。祖父は、戦争でけがを負って帰ってきた。実際に話を聞くと、語り継ぐ必要性を感じる。

　海外青年協力隊をめざしていたことがあった。日本のことしか知らないのでは、視野が広がらない。

（長澤）　今の日本は平和ではないと思う。平和大使の研修で日本はアメリカの核の傘に守られていることを知った。誰にも聞いたことがなかった。国のトップに立っている人は、国民のために何をしているのか。被爆国なのに、核の傘で守られているのはおかしい。もっと前からきちんと向き合うべきだったのではないか。

（八代）　子どもたちに、他の国は核兵器を持っていていいのかと聞かれる。危ない物を持っているのはおかしいのでは、と子どもたちも感じている。以前は８月になると、戦争に関する映画や特番をやっていたが最近見なくなった。悲惨な映像は考えるが、興味を持つのにはよいきっかけになるのでは？

（関ロ）　自分の家にも「火垂るの墓」の絵本があった。映画も見て、何となく興味を持った。また、喜多方市では戦争展を実施していて、小さいときから目にしていた。世代ごとに感じることが違う。様々なタイミングで学ぼう、知ろうとする事は大事だと思う。

学校や労働組合で平和学習が行われていますが、その必要性についてどう考えていますか？

（長澤）　広島研修で聞いた被爆者の話を同年代の人と共有する機会があったが、あまり興味を持ってもらえなかった。ただ伝えるだけでは共感してもらえない。「自分事として考える」が大事。自分事として考えて伝えないと表面的にしか伝えられない。

　平和学習は必要。戦争の恐怖や戦争をする意味、「平和」の意味も分からないままになってしまう。戦争の恐さ・悲惨さについても、年代によって「ふんわり」だったり「しっかり」だったり伝え方を工夫すれば、小さい頃から学ぶことができる。平和であり続けることを次の世代へ残すためにも、その土台を築く平和学習は必要だと思う。

（八代）　日教組のスローガン「教え子を再び戦場に送るな」があって、平和であることを組合が何よりも大切にしてきたことが分かる。青年には、「組合活動＝楽しい」が先かもしれないが、自分も組合の平和学習で広島に行くことができたのは、大きな経験となった。

　学校での平和学習は、教員によってかたよりがある。地域によっても違いがある。小学校高学年には、社会科歴史分野の授業の中で伝えることができるが、その他の学年ではなかなか難しい。

　長澤さんの話の中にあった、「ふんわり」「しっかり」は自分も大事だと思う。日本は敗戦国なので、外国からやられた側の内容が多い。しかし、日本が戦争に向かった背景には、当時の経済状況から自国の利益のためという面がある。また、ロシアとウクライナの戦争は、「悪いこと」と分かっているのになぜ起こるのか。中東の問題も複雑に絡み合った要因がある。「戦争はだめ」と結論ありきではなく、事実をきちんと伝え、子どもたちの発達段階に応じた「平和教育」「平和学習」が必要ではないか。

（関ロ）　個人的な旅行で広島や長崎などを訪れるのと違って、労働組合や学校で平和学習として行くことで「平和」というテーマを共有し合えるので、さらに発展していくのだと思う。県教組青年部でも「平和」をテーマにした学習はあまり企画してこなかった。今後、県内の平和学習ができる施設など調べて、企画していきたい。

**　高校生平和大使の長澤さんの深い考えに、驚かされる時間となりました。「平和」という広いテーマにもかかわらず、それぞれの立場から思いや考えを聞くことができた有意義な機会となりました。**
**　みなさん、ありがとうございました。**

知って安心 私たちの権利

給与増額改定に伴う差額が支給されました！

12月24日、会計年度任用職員（パートタイム）をのぞく皆さんに差額が支給されました（パートタイム職員は年度内支給）。特に若手の方は驚かれたことと思います。『これが組合活動の成果。君も入ろう！』と、加入の呼びかけをお願いします。

24年度末人事異動に向けた動き　本格化

昨年中に皆さんからお預かりした人事異動希望個票の内容をもとに、教育事務所や教育委員会と交渉を重ねています。校長との相談などの中で希望に変更があった際や質問、お困りごとは各支部へご連絡ください。変更を踏まえ、交渉していきます。

現場から寄せられた質問から

先日寄せられた質問で「子育て・家族看護休暇で、分単位の端数が残る場合、どうなるのか」というものがありました。子育て・家族看護休暇は、1日または時間単位で取得するものですが、使い切る際には分単位での取得が可能です（年休も同様）。

せっかくの権利ですので、大切にしっかりと活用していきましょう！

みんなのひろば

～須賀川市　市民交流センター tette～

夏の暑い日や、お天気の悪い日、よく須賀川市のtetteに子どもを連れて遊びに行きます。

広い子どもの遊び場があって、天井に張られたネットで遊べたり、室内砂場まであり、時間制限はありますが、心から楽しむことができています。絵本など充実の図書館、カフェ、おしゃれなショップなど、遊び場以外でも、大人も子どもも楽しめる施設です。ウルトラマンの怪獣にも会え、親子で楽しめる施設です。

（田村支部　Sさん）

ノスタルジー

～今回のテーマは「年の始めに」～

二〇二五年が幕を開けた。年始めに会ったフィリピンで英語を学んでいる友人の娘さんのことばが印象的だった。「フィリピンはめっちゃ不便なんですよ。でもそれって面白いと思いませんか？私好きなんです。」

現代はタイパ・コスパ重視。映画やドラマは素早くあらすじを知るか、早送りで結末まで見る。ネットで好きなことだけを取り込んでいく。強いことば・キャッチフレーズがあたかも正解のように広められてゆく。

キャッチフレーズといえば百三万円の壁。「手取りを増やす」が強調され実現されればとてもよいことのように印象づけられている。

子育てのために今手取りが増えるのはいい／バイトのシフトが増やせるので助かる／学生アルバイトで生活費を増やせるのはいい、そんな声を次々と聞かされる。印象によって世論がどんどん一方向に流れていく。でも…

非正規労働者が増え続けること、社会保険制度や年金受給についてなど課題がたくさんある。そもそも学生がアルバイトをして高額な収入を得ないと学生を続けることができないことの方が問題なのではないか。さらに奨学金という名の多額の借金を背負わされる。少子化や教育の機会均等にも通じる大問題だ。百三万円の壁以上に対策が必要なのではないか。

物事に正解はひとつとは限らない。多角的に考え、あたかも大正解のような風潮やキャンペーンに取り込まれない力が大切だ。

それに必要なのはやはり教育だ。ひとつのレールに沿って正解を知識として覚えることはもういい。学校は、生活も学びもひとつの正解を強いることから脱却しよう。自分で考え、自分のことばで話し、対話し合う。そこから得られる学びをつくるための教育を模索すべきだとぼくは思う。

友人の娘さんが言った「不便がいい」は、不便をどう乗り切るかを考える楽しさ、その過程で触れ合った人たちの優しさ、それが初めから分かっていたことではなく、自分の行動によって思いもよらず得られたことだからこそ発せられた言葉なのだろう。不便だからこそ、正解が分からないからこそ、自分で考えようとする。

「本当に大切なことは目には見えない」サンテグジュペリの言葉が響いてくる。

（K・I）